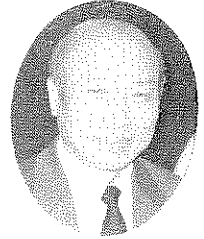


.....
 卷 頭 言

会長に就任して

坂 田 まこと 亮



昨年、副会長に就任しましたとき大厄（大役）を引き受けたと書きました。まさにその通りの一年間でした。昨年の10周年記念事業を行なうにあたり、団体参加登録料1口20万円、50口（1000万円）を集めねばならなくなりました。そのとき、集まらなければ自腹を切る覚悟もあるべしといわれました。しかし多くの方々のご尽力の結果、団体参加56社からは1172万円、個人参加132名からは186万円、合計1358万円が集まりました。この外に学会拠出金200万円、その他広告収入などを含め総収入が1620万円弱となり、これを用いて国際シンポジウム、記念講演大会、記念式典、記念図書出版、「表面科学」特集号2冊発行、論文賞授賞などを予定通り無事記念事業を終了しました。そして収支残高約600万円を学会へ納入し、それを法人化基金、国際交流基金、OA機器購入金とさせていただきます。このことは一重に運営財務委員、実行委員、理事、評議員、各委員会委員、会員諸氏のご協力によるもので、重ねて深くお礼申し上げます。

さて、これからの任期1年間は、法人化準備へ向けての一步前進を致したいと思います。法人化のためには約2000万円以上の基金と1000名以上の正会員数が必要です。法人化準備金（現在約500万円）を増額するとともに、財政基盤強化のための一助として“維持会員”制度を設けたいと思います。また会員増強と地区活性化のため各地区に“支部”を順次設けていきたいと思っています。ただしこれらを行なうには会則を改訂する必要があり、それには総会での承認が必要です。これらの準備をしたのち“会誌月刊化”に踏み切るのが順当かと思っています。しかも月刊化しても、会費値上げを避けることができるほどに財政基盤が強くなっていれば良いかと思っています。

基礎講座、セミナーも定着し、今回の基礎講座では200人の定員に対し350人の希望者があり、150人にはお断りせざるをえませんでした。これを機会に、この秋、事情が許せば関西地区でも基礎講座を開催したいと思っています。高温超伝導体薄膜作成をテーマとしたセミナーでは、70人の参加者があり、活発な質疑応答が行なわれていて、これも順調に運営されています。また会誌も編集委員の方々の絶大なご努力により順調に発行されています。

“表面”のない物体はありません。物質科学において表面または薄膜の問題は益々重要になってきております。この表面科学の発展が日本の科学、工業を進展させる原動力となることを確信し、当学会の拡大成長のために、会員各位のさらなるご支援をお願いしつつ、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

（杏林大学・物理学教室）